

昭和三十六年五月二十四日招集

館山市議會第三回臨時會之議錄

昭和三十六年度錦山市議会第三回臨時会々議録

昭和三十六年五月招集

一五〇二四〇(水曜日)

一現在議員三四名でその氏名次の通り

- | | | | | | |
|-----|---------|--------|-----------|------|-------|
| 一 | 番 | 山本 早 | 二 | 番 | 脇田 順一 |
| 三 | 番 | 三 沢 節 | 四 | 番 | 志村 信作 |
| 五 | 番 | 岩崎 静敬 | 六 | 番 | 鴻 田 繁 |
| 九 | 番 | 吉田 勇右郎 | 一〇番 | 佐野 信 | |
| 一一番 | 川 名 房吉 | 一二番 | 佐川 貴太郎 | | |
| 一三番 | 吾谷 川 光江 | 一四番 | 江田 徳太郎 | | |
| 一五番 | 小 秋 實之助 | 一六番 | 石 井 孝 | | |
| 一七番 | 安 沢 徳 順 | 一八番 | 安 西 政 治 | | |
| 一九番 | 法 木 嗣 郎 | 二〇番 | 茂 生 田 七 郎 | | |
| 二一番 | 後 藤 ゆ り | 二二番 | 田 中 禄 郎 | | |

二三番 吉田辰雄 二四番 飯田義男

二五番 鈴木市藏 二六番 鈴木孝太郎

二七番 田中忠藏 二八番 加藤良太郎

二九番 遠山三木子 三〇番 北山茂雄

三一番 田村喜兵衛 三二番 鈴木孝

三三番 山口幸三 三四番 松本藤太郎

三五番 山口康 三六番 海貫杜作

一議事日程

第一議案 第四九号 沼山市建設計画、調整につて
下流方面より上流方面に於て

市長 四村利男

助役 小出武男

収入役 完戸貴

総務課長 山口実

秘書課長 山谷潤和

稅務第二課長	多田俊一
商工水產課長	羽山秀雄
福祉事務所長	長谷川六治
厚生課長	伊藤幸太郎
稅務第一課長	通田森吉
保險課長	神作啓次郎
市民課長	高木哲三
農畜統計課長	吉田耕一
建設課長	新井重助
消防署長	安藤龜吉
教育課長	工藤和平
總務課長	穂沢貫寛
學校教育課長	池田源之助
社会教育課長	松本久

一本議會、事務局長書記及職員

事務局長 高梨清一

書記 太田博雄

同 兵藤恭一

取 置 山口晴之

一出席議員數三四名

一欠席議員數〇

午前十時開會

議長(山本 早忍)本日、出席議員數三四名、これより开会

市議會臨時会、開會、用会、い、ます。

本臨時会、議案説明のため、田村市長、小出助役、奥戸

次入役、山口課長、山谷課長、多田課長、羽山課長、

新井課長、高木課長、吉田課長、神作課長、真田課長、伊藤課長、長谷川妙長、大島書記長、安藤署長、工藤教育長、鶴沢課長、池田課長、杉本課長、以上、列席下止めより、この御報告申上ります、議案下配付いたします

(議案配付)

議長(山本 早 冠)議案の配付漏れございませんか、ザーと認めます、

今期の決定下行します、

本臨時会、今期につま議合運営協議会の意見は本二四日より二六日まで三日間ということであり、す、お諮りいたします、今期下三日間と定めます、す、と、御異議ございませんか、

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長山本昇君御墨議下しと認めます。

よ、今期は三日間と決定いさうさうに、

会議録署名員へ決定下行います。本臨時会の会

議録署名員は四番議員志村信作君、三番議員

松本藤太郎君、以上両君下指名いさうさう

これに御墨議いさうさうせんが、

(「墨議」はしと呼ぶ者あり)

議長山本昇君御墨議下しと認めます。

よ、決定いさうさう

本日、議事はお手元に配付の日程表により行い

ます。市長より提案理由の説明を求めます。

(市長田村利男君登壇)

市長(田村利男君)本日御墨議願う議題といさうさう

館山市建設計画、調査についでいさうさうが、この間

題はつゞき――は三五年、三六年とエケ年々わたり
――市各部るにふり――を核討い――する
も、――に果地方課あつたはその地の工司と打
合せいら――もつ下週町新町村建設審議会
の議決を経――と本日こ、に工程――にわけでござい
ます。河合広範囲にわたり――計画書でござい
ます。で大体今後通下――と五ヶ年計画と申しまし
て館山市に画期的、計画でございします。で慎重審議
の工御可決の日ど下を願ひ申しとらふ次方でござい
ます。議長山本早一君）議案第四九号と工程い――ます。

（書 記 朗 読）

議案第四九号 館山市建設計画の調整について

助役（小出男君）議案第四九号と提案い――する趣旨につ
づき――御説明申しとります。

३

御承知の通り昭和ニ九年旧法でありました町村合併促進法と切り換えて新市町村建設促進法がでました。合併當時各町村にありましたのはそれの五ヶ年計画であつたのは三ヶ年計画にもございまして、もうがもう一ヶ年計画を建てまして、町村合併下いろゝたのでございまして、が早々、一機、あつたので、なかく地についた計画も、うまいや、かうみがある、たのでございまして、その後時が過ぎまして、でも当初の計画がそのまゝ、実行された部面と、うまい部面が多分にあつたわけであり、います。その後新市町村に切り換えて、その後

は、この不満を点下補足して、さらに新時代
感質に基いて進捗は計画下で、ていこうというものが
新市町村促進法の本来の趣旨でござります。当市
もこの方針として、新市町村計画の作製に
とりかゝることにしたのでござります。この調整
は、さうしては、一年位前から市各般の行政
分野にわたり、一応の基礎調査として、さうして
、膨大な書類でござります。市各般の行政各般に
一応現状について、記録として基礎的の調査
をして、さうして、この調査のあとに、館山市と
ては、どういふ点に欠陥があるか、さうして将来、こ
ういふ方面の仕事に、とりかゝるべきが、安否じゃ、いかど
う一つ、方向下で、その分析でござります。この分
析をして、さうして、その結果生れたものが、本日提案

いります。また計画書でございす。この実施
 計画下でございす。今申します。経過下で
 りましてその後具体化するわけにございす。でこ
 の事業は将来館山市としてやる。場合には單
 に館山市だけの自力でございす。面が相当あるわけ
 にございす。御承知の通り。現在の自治体は国
 あるいは県。いわゆる工級官庁。支持援助という面
 にまつ面が多いわけにございす。で法律にも現
 定してございす。す。とりあえず工級官庁であ
 る県の承認を得て県の計画とマッチするよう
 方向に事前協議。行。各主管事務者の意見を
 取り入れまして修正。下。面が多分にございす。が
 そうして協議。す。す。す。が本日提案する。原案はな
 っているわけにございす。か。よう経過。下。り

一、戦源ボツの場合、マウド多の場合ということもあるで
あふいます。マウという場合には、計画の変更い
て、その時に、六ドに策して、いま、考えて、い
います。そう、一に精想、下の内容も、計画で、
あふいます。その意味において、御審議願います。
思います。以下、この書類により、各部門別に
主管課長において説明、下申、ご皆さんの御審議
下願うという、こと、い、い、と思、います。包含的
こと、下申、マウ、て審議、御参考、に、供、い、と思
います。

議長(山本 昇君)暫時休憩いたします。

午後一時三十分休憩

午後一時 再開

議長（山本 昇 君）午後、出席議員数三三名、議場前に引き
続き会議を開始します。

（総務課長山口 実 君登壇）

総務課長山口 実 君）本計画に入る前に事務の順序という
ことで、まず第一に基礎調査というところから完
了後現況分析を行います。これに終りましてから
お手元に配付の実施計画へと入って、くるのが順序で
ございます。

第一の項目に上、くるのが実施計
画の方針、次に産業、進捗に関する計画、次に
交通計画、四に都市計画、第五に教育計画、第六
に厚生計画、第七に行政機構の合理化に関する計画、これらの
事業に関する計画が並んでくるのでございます。

これらの事業下計画する関係上、前の町村合併五年計
画のときの状況と今般調整による新市町村建設計画の

状況下比較して不十分と過去の計画合併促進法による状況は合併条件を念頭に置いて各合併地区の要望もございましてその市自体の財政規模下への膨入な事業が市当局に要求されております従って財政の状況も非常に困難な状況が過去の合併五年計画には生じたのでございましてそういう点で改めさせていただきますこの新市町村建設計画によりましてあくまでも新市は完全な財政の基盤の元に政策をとるという計画をとることを決めたのでございましてこの実施計画における事業の前々五年計画の財政規模について御説明申し上げます

この実施計画の五ヶ年間、財政規模をとる前に科学的に過去の取れる決算状況というものを勘案してどのように完全な財政把握ができるのでございましてつぎ

より過去にありける三〇年度の、この間に
ける市、収入状況下申しを承りますと昭和三〇年度が
合併新市基礎固め下より合併初年度に比するに
います。昭和三〇年度の決算歳入に比較して昭和三四年
度決算歳入は一六七倍、現況分析の二の一三頁に御覽
願います。館山市の財政状況下申しますと当市は非
常に税の収入歩合も低く、一の一三四年度に比
して、その財政の大きな伸びがなかつたのでございま
す。この原因はいろいろあると申しますと館山市の
現状をみますと優秀な企業体が多い、最近の国勢
調査の状況は人口が減少してある、産業不振といふ
ことが原因している、従って、これらの状況下申しますと
館山市の財政の現様は過去の決算の状況からいって、
して著しく発展の跡がみえなかつたのでございします。

次の、実施計画の九三頁 昭和三十四年度より 昭和四〇年
度に至る間の財政規模並びに、に掲げておられます。

基準にござります 昭和三十四年度の決算状況下基準に
いりますと市税の状況は金額に——て大体五百万から
六百万程度ふえていゝ現状でござります。 過去、決算
の状況下み——ても、いゝ道下とど、いゝので
ござります。 また依然、財政の、いゝもの、市債関

係下みりますと画期的に大事業の、庁舎関係、膨大
な起債に三四年、五年度に盛られる関係に、に起
債額に過去、起債額より大々、いゝ、いゝ、で
ござります。 また、三十四年、基準といゝ——て考
えらうと、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、
市税の伸の状況、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、
は交付税の、関係、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、
基礎下

変なものがでてくる限り一応財政の規模は大
体四十万のう三千万円位は市の確実な把握であ
る財政といつて計えてみるに過ぎないです
最終年度といふしまゝで四億二千三百萬計するに
すぎないは一応四年度の見てみてもいいです
相当低い数字のうちに思われすぎた現行の情勢から
見てとるにはこの程度が節々に確定に入ってくる財
政のゆくえをみまゝに計画するに過ぎない
です　　こういう状況の下に三十五年から四十年に至る
歳出の方にもこのゆくえに添えまゝに計画するに
過ぎないです　　従つて現状の序張りとあつては税
の改正とか、あつては交付金の基礎の単価の改正があつて
まじり場合には財政が大まかになると思ひます　　その
分はそのときの状況によりまして、そのときの時代

に適當な市の最も福祉となる事業と計画したい
と存じます。一六戦災復興は、このようは見地かう
なく、ご存じます。以上でございます。

(農畜統計課長吉田耕一君登壇)

・農畜統計課長吉田耕一君干前中市長、助役の方へ新市
建設計画の目的方針等につきまして御説明いた
します。その中で私はそれに基いて産業関係の支那計
画下樹を、その中でございまして、その産業関係は
つぎつぎと申してゆきます。

まず産業の振興に關する計画といううちの農林
計画下というふうな計画下にて、なかという概
要、最初に申してゆきたいと思ひます。

農林関係、大体四つに大分けい、つぎつぎと最初の
農地計画でございまして、ミレハつぎつぎとはい、ろ

いう今後農地の高度の利用従来の原始的な作業で
は地産業と同じような水準にもっていくことがで
きないという観点から農地の高度の利用という面か
ら重点的に考へてゆきでございましてこれに必要は
水源です第一に求めなくてははいけませんという観
点からいって皆様方の御協力下得まして安房
中央用水路下重点対策にとり上げられてございま
す。そうしてその水源の不足を解消されます
と同時に各農地におりますところの正画整理、暗
渠排水その他対策下年次別に織り込んで計画下
されていってございします。

次に第三点といつて、農畜計画でございします
が、どうして必要であり、^{かつ}館山の畜物として特に

奨励すべしもの下にも、掲げられ、でございまして、
て「イ」の「ロ」「ハ」三種目下特に重点的に施策へと織り
込んで、やりでございします。

次、カ、コ、ニ、ミ、ウ、レ、ハ、モ、の、下、と、う、ー、も、大、々、々、市、場、へ、出
荷、い、ろ、ー、ま、ー、て、市、場、価、値、下、降、と、い、う、こ、と、が、必、要
で、ご、さ、い、ま、す、の、で、こ、れ、に、対、す、る、共、同、出、荷、の、実、施、と
い、く、こ、と、下、も、ー、て、い、ろ、の、で、ご、さ、い、ま、す、

次、カ、ッ、コ、ミ、ミ、ハ、ハ、い、ろ、ー、の、作、物、下、作、る、エ、に、お、ま、ま
ー、て、病、虫、害、防、除、と、い、う、や、う、な、も、の、が、過、去、に、お、ま、ま、し
て、は、ま、め、め、て、貧、弱、で、ご、さ、い、ま、す、ー、の、下、最、近、特、に
ひ、い、い、畑、の、線、虫、防、除、と、い、う、面、に、つ、ま、ま、ー、も、重、点、に
下、お、い、な、わ、り、で、ご、さ、い、ま、す、

農、産、計、画、に、つ、ま、ま、ー
て、は、大、要、そ、う、ー、な、も、の、に、よ、り、ま、ー、と、多、角、を、営、下、な
ー、ま、ー、と、各、甲、向、的、な、利、潤、へ、は、お、か、れ、る、線、へ、も、ー、と、考

って農家を済下安定さーていさるわい、さう考えるわけ
でございす。

次に畜産計画でございす。すば将来いろいろ食生活の
改善等からみまーても房州の畜産下より以て効果あ
うーめようと考えなわけでございす。すばいろいろ金
のかゝる飼料でなく土地の改良等によります。すば三毛作
三毛作等下利用いたります。すば裏作として飼料の
造成下はかゝよう十二分に促進して参りたい、このよ
うに考えるわけでございす。すばおそれと並行いた
ります。防疫検診等の徹底あるいは今盛んに行わ
れております。すば共同集乳処理とも、さ参りたいと考
えて畜産計画下でなわけでございす。

次に林産関係でございす。すば大体戦前等へおます。す
ばはあまり価値のなかつた山林計画が現在におます。

ては大体農家へ収入。根拠であるといわれてゐてゐる
 了す。林産関係へより一そうの南進してゐる。その
 農地その他に關するところの海岸に近いたるところに
 防林の保護育成と絡んでゐるわけでもございまして
 て最近とみに多い病虫害に對しては防除と考
 えられてゐる。これは木々の伐採は山を
 大切にする。そのまゝに、その面積の共有
 林関係等も十分活用したい。従つてその一に
 部落等と折衝して、その一に、その面積の共有
 も、その一に、その面積の共有
 以上四つ、観点から細かく年次別な計画につけて
 て御説明申してゐます。

三十七年度、実施計画の農地計画でございまして、
 三十七年度に於いては、先ほど申し上げましたよう

は継続事業として果實を管理して取り出すところ
安房中央用水の改良、建設に於ける事業の促
進という面から見てこれ下計画に織り込められ
ておられます。これは事業費に約三千七
百四十万と推して、一億四千
万の総予算に於ける内算計画という面を
考へてこれ下継続事業の計画をたて、これ
を取りおられます。

以上区画整理、灌溉、排水、溜池、頭着工、岩道改良
の形測量、この大工事からしてこの総合の
三十七年度にこの地域、事業が実施される一早くその
効果の現われてくるかと考へて三十七年度に実施
したいと考へて計画を立てたわけでお見ま
す。この事業のうち、国庫補助金があるのは果實

補助等でもうれておられない事業もござります。しつぱりなうこの事業につまづいても、国、果、従来、ようは補助令勅政下保る考え下も、てあります。まだ確定して線までてあります。人の一切市費あるいは部海員担その他の団体員担の金類下計エー々わけござります。しつぱりながら極力国果、補助令下これ以外にもううという考えで計画下で、あるので御了承願います。次に農地保全利子補給でござります。これは大体農業基本法、決定によります。行い得られるものと存じます。一応この計画に於いては、まだ施行に及んでいません。ので果との話し合いもござります。——利子補給利度、農地保全事業といつづき——てこうした融資額に於する利子補給下変更して

参り、これに つきましては協業促進というもの
下考として、これに農地保全利子補給という名
をつけまして計画に樹立し、これに
つづいて、この点に つきましては各年次別に計画
をたて、
その他農地造成、果樹園の造成、畑地
の開墾というふうな面につづき、
団体等の要請、また市といつづき、この計画目的
等につき、これに織り込み、
いとして、計画として、これに
つづいて、
農作物の生産目標、
つづいて、優良種苗関係、
裏作関係、
育成の面、
特に球根育成の面、

新潟県へとり入れて、その現況へう、それに近い球根
育成のことも傳へ、気候、工場の適うに地域もござ
いますので、そうして面下十二分に活用して、市田は申
すまでもなく、従来安房、球根は館山市、球根育
成地へう補給する者も方でも、考へたいことを計画
下織り込んで、やりていきたいと思います。

園芸品につきましては、特に今盛んに東京市場にも
あり、おみつけられ、よりよりすいものの増殖、あつ
は苗、育成等につきましては、重点施策下い、う
して、年次計画下、下て、やりてい、います。

以下、採種の更新、あつは落花生、種の更新、の面
そう、そのもの、栽培改善等、つ、う、う、う、う、
う、い、あ、という、う、う、う、う、う、う、う、
指導、という、う、う、う、う、う、う、う、う、
指導、という、う、う、う、う、う、う、う、う、

やうなものにふりまゝでこゝろに農産物のいいもの
下にくさん作。で一年で一回であつたもの下二回と
あつた品物によつては三回とあるという事業を行つて
参りたいと考へまゝでこのやうなものに計画してわ
けでございします。はあ、それつゝまゝで農産物研修
生の育成でございします。農村の青少年にら下とい
ふ人果外に^派遣いして、まゝで他府県の事務所より
入れて本市の農産物の増強に回して参りたい。この
やうに考へられたいでございします。以下にこれに伴
うまゝと、ろの各農家の資金借入れに対する利子補給
の面も当然必要でございします。この二つに大別した
農業関係と農産物生産関係資金、この二つに大別した
一、まゝで計画するに次第でございします。その他
流通対策、麦米の売渡、促進という面におきま

ても従来に一そうの拍車下りたりして、このような計画に基いて完璧下期——を参りたい。このように考えるわけでございます。

次に畜産計画でございますが酪農につまづいてこれ下廻りの経営から早く脱皮いたしまして共同集荷処理というもののことで会社へと収めて生産者の利得下ふやすという面につまづいて計画下つてたわけでございます。

まず飼料の対策でございますが従来五五から六〇に近い生産額に対する飼料支出——であるようなわけでございます。それと逆に自給飼料の生産等によりましてこれ下四〇％以内の食止めであるというふうな計画から優良草地の造成、それと生草の乾燥施設というふうなもの、下計画に織り込みまして生産者の

利益の増強下期して参りたいと考えるわけであらう

次に林業計画でござりまするが従来市の予算といへば一千万に及ばない計だといふ事になります、しかし今後個々の財政あるいは市の財政等下考としますと、更にどうも伐採地の造林育成下十二分に考へて個々の収益の増収にはかゝる参りたい、このように考へるわけであらう、はあ新悪林等には一千万に及ばない更新下いさうして成長率一等に及びても手入れをするとはないとはいへば大体半分以上の差下りますという分析等に基きまして、この悪林の解消というふうな面、それから森林荒廃の防止という線も織り込んだわけであらう、また、特に新しく考へたのはどうも公有地と

出入可無き木地の面積 そうして面積ありて植林がな
 かゝる地ありぬる面積つゞきては契約をいふ
 として分収林の計画に基いて市町村に造林の手
 づつけをいくふうにもして参りたいと考へて新
 るものに継続事業といふこととして分収林の計画
 してわけておきます 又おそうることによ
 りして特に多い豊後地域等の山林関係の開墾
 合々して林道等の整備にはおこ参りたいと考へ
 るわけをいふます 又おその他森林保護の面
 におきても砂防林の保護育成 それに對して
 こつ病虫害の防除これは当然実施しなくてはなら
 ないと思へて計としてわけておきます 又他
 そうして造林計画下にあるもの下今後保護育成
 の上におきても山林の下刈 あらういふものに要

し、すところの機械化による草刈機の購入等、この
計画としてわけを記述します。なお、そのうち、林
業関係の中でも特に最近成績を上げ、新しい計画
と、そのしいたけの不時栽培等も、この新しい計画
に、いれ、す。て、農家の増収をみていくというふうな
考え、す。た、植林造成等、つ、す。ても、通
地、通木という考え、方、う、い、ろ、す。て、どう、ても、山
林関係の土壌調査の必要があると、それ、す、この計画とし
て、わけを記述します。その他、ろ、と、林業関係
に、あ、す。ても、普及園芸の改善等、に、あ、す。と
ころの講習会等、下、設、け、す。と、林道育成の思想の高
揚、下、は、か、て、参、り、を、い、このように、考、え、計、画、下、に、て、な
り、わけを記述します。

以上、三十七年度の計画概要を記述します。

次に三十八年度九年度四〇年度でございまして、大体
 たいいま申し上げます。七年度の計画下継続いた
 して、各年次別に、これ下私どもが考え、緊急度
 の強いものから、逐次年次別に、三八、九、四〇と、この計画
 下織り込んで、みえわけをいふます。従いまして
 三八、九、四〇の年度につきましては、大体三十七年度で
 御説明申し上げました点と変わりございませぬので、大
 体金額の概ねにおきまして、その違ひは、わけをいふます
 ので、本印刷物によりまして、御了承下得たいと思つ
 めてあります。

それでは、八五頁……、こうして、事業下六年度に実施い
 たら、たいと考へるわけをいふます。が、農地計画にお
 きまして、事業費の中で、三千九百万あり、でござ
 います。農産計画で、千七百万あり、畜産計画に

あつて三百五十万用あり 林産計画におきま
して千四百万あり このようなもの下合をうけて七
千四百万ありが四〇年度まで大々年まで経費下計
としてゆりておきます。

なほこうして経費下計をしておきますがこれ以外に
いろいろと農業基本法の施行等に伴います。こ
うてもこれ以外に必要な事業 あるいはまたやうやくて
はなうない問題もいろいろと年次にあると考へるわけ
でおきます。 そうした場合にはあくまでもこれ

を基礎といつて、事業の変更下いへて、し
て農民の福祉増進にうけ得るような事業計画下
変更して実行をもち、と考へるわけでおきま
す。 大体以上が農林関係におきますところの、実施
計画の概要でおきます。で何分所審議の上所協力

一 魚山町議会

類之いは結構だと思います。以てあります。

議長（山本 昇 君）暫時休憩いたします。

午後一時四十分休憩

午後二時 分再開

議長（山本 昇 君）休憩前に引き続き会議を行います。

引き続き主管課長の説明を求めます。

（商工水産課長 羽山 房雄 君 登壇）

商工水産課長 羽山 房雄 君 産業の振興に関する計画のうち水産計画 商工並みの収入計画について御説明申し上げます。

三九頁三年度の水産計画でございますが、まず漁船の問題、これについて、これも生産力の増強のために無

動力船と動力船に逐次変えていまいというところや
小型漁船の近代化の問題 大型化の促進という
ことについて構想というところでは融資の円滑化
並に資金・金融利度の確立 整備資金の円滑化と
利子補給による助成というところと一応構想として
なっています。次に漁港施設の面でいいます。漁
港修築工事の促進につなぐところは漁船の問題に
伴います。漁港区域の拡大はかゝっていますとい
うこと、漁港の機能施設の整備につなぐところと
これと十ヵ校討して参ります。
これは幹線道路の整備とか道路の舗装とかこういう
点に計画して参る。

漁業経営の合理化の問題をいいます。施設の整備
は漁業協同組合の経済力の如何によるものであり、

てこの弱体の協同組合はなるべく統合によつて強化してゆきたい。組織の強化はねつゝ大わけでござります。次に増殖施設でござりますすがこれは機械資力の最近の減少を防除する意味で浅海増殖事業といつてしまして漁獲の設置、こういうもの下助成して参りたい。特に浅海増殖は今年度の重点としてとり上げ大わけでござります。ます。

次に漁業従事者の世帯・関係でござりますすがこれは経営の改善はねつゝ大わけと同時に兼業世帯も兼業を営むの研究とか生活改善の指導、こういう面は力をつけて、経営の改善されるのはないか、こういうふうな構想はねつゝ大わけでござります。

次に資材の購入でござりますすがこれは生産費の合理化、下ねつゝ大わけでござります。漁家の収入の増大は

かるために資材の共同購入あるいは給油施設の完備
によつてやつていふ構想でございます。一方水産
加工の面におきまして水産加工業の強化と共取態
勢の確立という問題があらわれでございます。これ
によつて加工施設の合理化近代化それらによ
つて生産を増大して品質の向上を目指していく。な
お一方経営の健全な發展をみるために諸経費の節
減、中間利潤の排除、こういうものも十分検討して参
りたい。また健全な経営を考へますとよく融資の
幹授等も十分考へていかなければならぬ。

次に魚市場の状況でございますがこれはやはり漁業
組合、統合等によつて魚市場機能が整備促進す
るという目標をたてておられます。現在では
取扱の数量から推定してこの魚市場の維持

等については、運営の困難は否かということですが、予想
を以てする、で漁業組合、統合促進して強化を図り
たい、大体水産関係につきましても、そういう分析
精想によりまして、実証計画を樹立してゆりてござ
います。

商業の関係でござりまするが、商業機構の整備という
問題でござりまするが、まず第一点は商業資本の零
細でどうみまかというところでござりまする、大体基本
計画の、その二、三九頁以下、商業についての諸問題
ととりとめてござりまする、高店街の形態の改善
商業経営の改善については、四頁ほどありてござ
りまするが、商品経営の合理化、労働厚生制度の確立、
商工会議の活用、商品の高価防止、こういう問題
について、それ、一、精想を掲げてござりまする、

市場の開拓をいふつまりこれも消費者の限度だとかあるいは販路の開拓こういう面について詳細に検討する——構想を、に記載してごさいますので御覧いただきと思います。

次に観光施設の向題でございますが観光面では施設の充実、あるいは観光客の誘致、観光地としての環境の浄化、あるいは宣伝の方法、こういうことについて、に記載してありますように構想をなして、それでその下は設計画にのせてわけでございますので御検討いただき、と思います。それで省界をさすといふ、ますます。

(建設課長新井重助君登壇)

建設課長新井重助君(三五、六年度は実施してありますので省界をさすといふ、ますます。

道路改良について申しあげます。市道でございます。

が館山市内にあります。市道は八三三路線でございます。

その延長は四〇一キロという長い膨大な長さとなっております。

であります。中へ果道、国道は一三路線へあります。

また、それが産業、交通路下形成してあるのでございます。

また、特に御説明申し上げたいことは、館山市内下通過

というものです。トラック、乗用車、そういうもの下市道の道

路下通過させずに迂回下にして、まして目的地に到

達させる。こういう考えの下に、工事下進めを参って

おります。例えて申し上げますと、船形市四、昭和三三年

八月に交通調査というところと、その結果下みますと

郵便局前において約三、〇〇〇台の自動車が増加して

ある。六軒町で一日約五、〇〇〇台でございまして、千葉

銀行の館山支店の十字路で四、五〇〇台、潮入橋で二、六

○○名 南町の如くにいきまゝて三、五○○名 こういう
大なる数字になつてゐるので丁度最近の自動車へ
増加に伴ひまゝてこの交通量に五割位ふえてゐるの
ではなにか、こういうふうな考へてあります、この交
通難し現在の市街地を拡張していくということとは
とうてい現在へ財政と市の財政を考へまゝて不可能だ
と考へられるので昭和ニ七年より海岸道路の開設に
基きまゝてようやく開通の運びとなつてあります
すべしこういう関係のうちと郊外地に通路を変えて
いさぐさい、かゝうに考へまゝて本計画下でないので
ありません 市道のうち四五年度まではどれだけ
改装で済むかということも考へたのでございます
が八三三路線は全部というわけには参りません 相
当永い年月を要するものと考へられます 特に重

1. 1000 x 1000 下 鋪 装 して いる。

いさへ道路の維持補修に十分な考慮

下はらうてありますすが現在平又里川の砂利を使つて
ありますがいれも資源源が枯渇して参りますので
今後は果外砂利を入れて用います。こつう計画下
で、いります。なお実施をいりますすが四
〇年までにいれけのもつとやつていこつとといふ
予算の方もいりますので道路にあつては
一路線下完了して行きます。それへは舗装は一〇
路線でいります。橋梁は三三橋とり入れまして
そのうち永久橋九橋へかえていきます。それへは
果道並に国道の工事負担金が毎年かゝつてあり
ます。これも年毎に通つて計画の中へ織り込
んでいります。なお今後の三七年以降四〇年までに
その中に書いていりますが一応箇所だけ御説明申し
上げます。

西岬の見物小沼線、大久畑線、栄・浦港線、洲・崎で西
 岬へ通ります。それより作石山茨線、大石桺余線、
 これは大石の方へ通る。四年間、これより勤勞
 奉仕をやっている。道路と敷通い、
 した。神余地先が非常に狭いので、それより改修してい
 ます。かゝうに考へて、これより改修する。いま
 す。布良相済線、布良港と相済港をつなぐもので
 通ります。大井真野線、大井より真野の大黒様
 に通ずる道路、市道二五号線、これは八幡神社前より
 海岸道路に通じます。道路で通ります。三軒町海
 岸線、これは三軒町から駅、北側の踏切を越えて
 海岸に通ずるもの。新宿新井線、これは海岸から
 二中の前を通っていくもので通ります。八号線
 市役所裏の高等学校のとこへ、木又修、とこへ

ごまいます。これは政舎の移転関係がごまいます。
ので狭く、ごまいますので、それ以下改修する。

那古港線の改修 六瀬竹原線 これは旧果道の

かどを曲り、つういというミとろ下り、ごまいます。

正木稲栗線 これは旧果道で、ごまいます。これは下瀬

次改修して、ごまいます。御嶽線 これは箱橋の手前

から六瀬に向いていく道路中、員が非常に狭いので

これ以下改修する。船形停車場 登の下線 これは船

形停車場から登の下にいく道路で、ごまいます。

なお舗装道路で、ごまいます。舗装していく道路は

館山港線 六軒町八幡線 沼館山線 六軒町南町線 これは

は高工合換所から二五号線、これは八幡神社から新着新

井線 二五号線 船形の十字路より海岸に向いていく道

路、一五号線と、ごまいます。市方舎の裏側下り、ごまいます。

土木機械購入でございまして、これは通帳三五年
度に一回ございまして、ミニブカーとトラック一台、ローラード
入いまして、現在トラクタが三台ございまして、そのう
ち一台は老朽となりまして、冬にございまして、三十七年度に
おいて購入してございまして、土木機械の購入は四〇年度
まで、これ一台でございまして、

港灣計画でございまして、工事を執行してあり
ます。港は商港、館山港でございまして、それから第三
種の船舶港がございまして、三六年度より

富崎港の修築がございまして、第一次計画の中に入
ってございまして、地元の都合もございまして、た
ゞ今までは着工されていなかっただけで、今度第二次計
画に移りまして、富崎港とそのま、設置して
おきますと、将来困りますので、港の喫水

が浅いという点とで水考方の検討で第三次工事と第一次工事の掘さく下して便船の大型化に対応しようという計画の下に三六年度より起工するものに切り替へ、これはいずれも果工事ではない。又、市は負担金下で下、負担金の額は四〇年度まで継続するものだと思つてゐるにエグゾーだ。特に船形港でございまして、本年度より第一節工事に入りまして今後、計画その他につきましては果で計画してあげよう。それで詳細はまだ私の方には参つておりませんが、その間の予算額が、都度お示しをいたします。その範園内予算想は、三、四〇年度まで、このようにして、わけをいふいます。

次の様橋並みに水路整備の計画は、館山桟橋、那古桟橋、北条桟橋の三つです。特に館山桟橋は、

巧いまいして今後相寄の修繕費が必要といはすいか
う考へて重点的をや。といふまい。それかう水
路費でいふいますが大まな平久里川、境川、汐入川等
重要河川は、よりするの維持補修、並に改良
に努めては果ては行してゐりますので市は費用
下投する必要はないといふます。その他の川で
過去にあつては災害復旧工事その他の費用下投
います。河川といふよりどんく川、更留川、
香川等に若干の費用ばかり、ということが見えられ
ます。その橋樑と水路の合計は、よりして各年度に
費用下投積、ていふます。

都市計画道路が大いにありますに都市計画道路下やり
も、その北条の北町、う正木に通ずる道路をいふ
います。その後に行つたのが船形、う館山港に通

下も道路でいふいます。

海岸道路は館山大橋も架設を終りまして船形の一部を残すのみとになりまして、船形の改良はつゞけてもいろいろ設計中でいふいます。これも本年度に完了してまいりたいと思つて進行してまいります。

その他船形館山港線は砂利道で改良を完了してあるのでいふいます。砂利道の維持補修は甚だ重要であつて、維持補修については全部市でつかはしていかねばならぬといふいます。これは市財政上非常に負担が大まくなりますので、今同急

運に舗装をして参ります。交通の安全を圖ります。とりもたず先月と申しますと市街地の交通難はこの線によつて五割以上吸収して交通緩和はかる関係上、今年度より舗装を開始いたします。本年度は幸い

バーで建設省で国道並の取扱にしたいという事
千五百万の予算下でいいという事
は市において行います場合には三分の一の負担が必要
とすうの感じがしますすが五百万の負担下で済むと
こういう従来からの建前が感じます、幸いして
果てると建設省が非常に館山市は熱心な道路
改良下でやってもうたとき、今間は国道の分割線とし
てこれ下重点的に認めていこうということと果て事
としてやっていることになり、それと私にも非常
に感謝してあるわけが感じます、そういう関係
で今後の都市計画道路下とにもっていくかという
ことも考えられるのであります、計画は分
析していただいて、国庫補助下でつく関係工
程の工事下開始することと、もう一つ、今間

へ計画は館山駅前の混雑緩和と海岸方面の発展を
 期し、――館山駅西口線の新設と、――といふ
 二つの考えの下に、――の二線下のせためけでござります。
 都市水路整備事業でござります。館山市の地形から
 申しエゲますと東部が高く、――で中央に――
 低くな。――である、海岸に行、――若干地盤が――
 なる、――という関係で排水が非常に困難とな、――
 ます。それ下どうの――で排除していきな、――といふ考
 の下に計画下にて、――してそのも、――といふ
 つは館山排水区域でござります。これ五七ヘクタ
 ールほどござります。この排水をどうして、――とい
 へ、――といふことを――に改良を要するといふことを
 館山排水路と新井排水路の二本によ、――北条海岸の
 かに流して、――流入川に流して排水路を完全に改良

していきたい。それから北条排水路を造ります。大野町下谷まで三軒も含んだ地域を造ります。これ下南町排水路と六軒町排水路。三軒町一号排水路。二号排水路。一橋排水路。この五つを設けまして北条地域の排水を完璧にしたい。こう考えております。

それから那古排水路を造ります。それから四ノクツ。一ル。二ル。三ル。四ル。五ル。六ル。七ル。八ル。九ル。十ル。排水路をやけり一本で那古排水路というのを設けましてこれを完璧に造ります。

那古の中央の排水を完全に造るという計画。それと一橋。二橋。三橋。四橋。五橋。六橋。七橋。八橋。九橋。十橋。排水路を造ります。それから新井排水路と六軒排水路。中央排水路の一部。三軒町一号排水路の一部。そして各所に排水の造るようになり、いろいろな考えをしまして各年度に作りまして地域

各銘記してございますので説明と有畧をさせていただきます。
 次に公園関係でございますが、これは固定公園並みに具
 々公園 都市公園というく含み入れてあります。給
 的に申しエますすと現在公園は那古山公園 城山公園
 沖の島公園 それのう児童公園というところでは中村公
 園、この改良をございます。城山公園は御承知の通り
 毎年やってあります。また完全な公園はできようとしてあ
 りません。でこれは果の計画によります。果の計画着工
 すること、なるのでございます。そのほか那古山公園
 等もございます。又、ニチそのほかの施設だけでこれとい
 うこともございます。せんが、一応公園として果において
 工事下執行してあるのでもございます。

公園につきましても人口六万位の都市をどう位必要で
 あるかと申しますと、一版公園といつて九ヶ所

位よりい、その面積が二七町歩位、運動公園でござ
います。バーナ所でも町歩程度、児童公園は二〇ヶ所位
で五町歩位、いというのが全国的な標準数でござ
います。これと照合させますと、現在、普通公園
は二ミヘクタールにございまして、や、足りないのござ
り、北条海岸公園等が今後果において強かに改良して
いこうという考えがございますので、普通公園とい
ては、まして、差をつけていこうのございます。

運動公園は、館山航空隊の基本といつて、建設
省の決定下みてあるのございまして、航空隊の増設
に伴いまして、プール、バレー、野球場その他は、滑
走路の中に入つて、取りまして、これは到底実現不可
能なもので、今後運動場の増設については、他の方面に地
域下おめて、建設しなれば、い状態でありまして、

子供児童公園につまづいては五メートル必要のとき
 には現在〇・一メートルかぎり、これは中村児童公
 園が館山市に初めてできたもので、貧弱なもので
 今後一九ヶ所位選定していかなければならぬ。
 一応私どもは計画下いづつまづいておきますのは根岸
 公園、諏訪公園、中公園、境の公園、北下台公園、丸山
 公園等六ヶ所見込んでおりますが、これも建設省
 の公園課におきまして補助の対象になりますので
 今迄根岸児童公園、これは船形でございますが、所
 作りますとあとは北条海岸の国定公園の中にあり
 ます北条海岸公園、これは一昨年のグリーンベルトの
 造成と整地、今後やること、休憩所、音楽堂、その他、施設する、あるいは駐車場を作るということ、
 この費用は各年間に分けておきます、那古山城

山公園等は各年度に分けて、施設物件の維持管理下、に費用下各年度に計画して見積、をのびる。ふいすす。年度の説明は有界までくいていす。それらう住宅でいふいます。現在四三六戸の不足ということにな、てあります。その内訳は肉借りの方々が三六三世帯、な肉借りを物置きのようは非住家に住んである方々が三三三世帯現在あるのびいす。この方々に住宅下与え生活、安定下図ううという計画の下に三五年度より二〇戸下つ建設、いす。して四〇年度まで二一〇戸建設、いす。してこれに充てたいと思つてあります。な二〇戸のほかに民間、建数戸数は過去五年間に四六六戸建、てあるのびいす。これだけのま、進んでいす。す。二〇戸は建てれば十分ではないかと考えられます。であります。が今後

＝男¹子²三³男⁴が他⁵の家庭⁶下⁷求⁸め⁹る¹⁰とい¹¹う¹²場¹³合¹⁴に¹⁵は¹⁶お
注¹⁷宅¹⁸の¹⁹不²⁰足²¹を²²想²³像²⁴さ²⁵れ²⁶る²⁷の²⁸で²⁹こ³⁰な³¹い³²ま³³す³⁴ 理³⁵在³⁶の³⁷数³⁸
地³⁹そ⁴⁰の⁴¹他⁴²の⁴³関⁴⁴係⁴⁵を⁴⁶四⁴⁷の⁴⁸年⁴⁹度⁵⁰ま⁵¹で⁵²一⁵³の⁵⁴戸⁵⁵の⁵⁶計⁵⁷画⁵⁸下⁵⁹作⁶⁰、
と⁶¹お⁶²り⁶³ま⁶⁴す⁶⁵。

以エエ本その他につまづいては表によりづいて御了承願
います。なふこれとべーづーに根本は基本計画下
基礎調査に書いてございます。それと元といろーづ
いて今折のオの一号と二号にどう改良していくかいろい
ろ。状況が書いてございますのでそれと御参照願
います。その今折の結果これだけしかございというの
が各年度に記載してございますのでこの計画によ
てエ本に因するとは御了承願います。
以て簡単であります。説明と終ります。

・教育長(工藤和平君) 定規計画の三頁の教育計画 事業内
容の概要を書いたとおりです。この計画下でやるべき
事——基本的な考え方について簡単に申していただいと
思います。 館山市の教育行政は学校教育 社会教
育——二本立てになっておるのでございますけれども
ものごとく水準が一そう高められるために必然的な政
策として考えられるべきことは学校教育におきまし
ては教育環境と教育の諸条件の整備拡充——という
問題でございます。

社会教育におきましては社会教育の環境の浄化並に
にその施設の拡充 さらには社会教育下実際に指導い
たりましては、その指導者の強化等も考えられるわけ
でありまして、この基本的な考え方に対して、まして現在
の館山市の施設はあまりに問題点が多いのであります。

すけれども、そのまゝも、下申しエグりますと、学校教育環境の中で建物をつくらなくては、二九年の旧村合併以来のわけ、考之として、できるだけ整備に努力して、まわられるごひます。甚々遺憾な点が多い

わけであります。小学校につきましては、大味大正十三年、関東大震災直後、建物に占めております。老朽校舎、危険校舎が大半でございます。こゝに申します老朽校舎、危険校舎の定義は、建てましてから三五年以上を過すもの、老朽校舎、こういうふうに表示されております。危険校舎と申しますと、三二年と二年に果の建築校舎が、定規検査下につき、指定して建物でございします。耐久度、四五〇点以下となつております。わけあります。これは、大形の、各風、直接、うろたへ、場合、危険な状態、こういうものであります。

従つて平常授業に受けている際に生命に危険
があるとして考へるまでもないわけでありまして
その老朽校舎が現在では四〇五小學校についてはおもひます
危険校舎バーナミという状況であります。

中學校につきましては、この建物は六、三利度施設の
戦後の建物であります。が、七つ、中學校の中、その半
分の三校が中下廊下にしてあります。その兵舎の
建物であります。すなわち、あつたが足りません。孫光不良

という状況であります。この五、五年度から三七年
度にかけて、中學校の生徒が急増する。錦山に
おきましては約一三〇〇人の急増でござります。そのた
めの当然普通教室並に特別教室が不足してきます。
こういう問題点があるわけでありまして、

高等學校につきましては、着々整備しつつあります。けれ

とも、小生徒数に對する固有坪数に約八〇〇坪不足する
 ところである。

まうに幼稚園はつゞゞは六つあります。半分の三つ
 は小學校の中同居してある状況であります。

次に教材教具等について考へますと、教育委員会では
 一応設置基準というものを下して、それによつて
 各學校に現在もつてあります。備品下照つうに合せてみる
 わけであります。定額調査下つゞの結果、小学
 校におつゞは約三五%の不足金額に下つて
 三千五百万円と推定されます。

中學校におつゞは約四五%の不足金額に下
 して四千^{三百四十}万円と推定されます。以てこのよう
 な向題点を解決するため、定額計画といつゞ
 して第一番に考へることは、危険校舍の解消、

老朽校舎の整備　この中學校におきましては普通
教室、増築と特別教室の整備　採光不良の教室
の解消　第三点といつて各教科用備品、均
衡化　これは大変なところ、問題でありまうすべけれ
ぬのはその理想に向つて努力したい、さういふ考で
ございます　この教育条件につきましては最初
からうけても最も大きな問題は即承知のやうに三六
年度から小學校の教育課程が改定になりまして新
しい指導要領によつて完全実施の段階に参つたれ
けであります　続いて来年度は中學校三八年度は
高等學校に於いてはさういふこと
でも教育内容の充実　指導行政の充実と第一に考
えたいのであります　館山市に送任の指導主事下
は命じているのであります　さうな教育のいふ

んが調査するところ、その調査に基づいて教育技
 術の研究をするというふうな意味から教育研究所
 といふふうなものを設けていふ、こういう理想
 のもとであります。さうな知識の著しく方々、ある
 子供普通の孩子と行動する、そのこと、でまづい
 子供は鎌倉市に於いて現在普通の教室の中、教育
 してある状況でありますけれども、これもその数か
 約一三五人と相当者と、^{（人）}数字に上つております
 ので将来特殊教育を推進し、そして市の中、中心校に
 特殊学級を設ける、こういう^構想をもつております。
 将来はあつて、これは郡と市は一体となつて、共同校舎
 を置くといふ、こういう考えをいふます。

社会教育関係の基本的な考え方を、つづけては、社会
 教育の環境の浄化、施設、拡充、指導者の強化という

こと下申し——大に社会教育の環境面で申しますと
これは錦山地区ではなかなか現在マスコミに
よる影響が今日では——く思われすぎし 特
青少年に及ぼす影響が大きいと思われぬので
ふいすす。 張——てこれに対する対策といふ
——は一般成人を対象とし——社会教育の振
興とともに青少年健全育成の実践としてエリ
く——考えにわけであります。 社会教育の施設面
におき——は市の現況に照ら——合々く公民館並
の公民館の設備、備品の整備——は、なお図書
館の図書施設の拡充、建物は前、銀行であり——
た。でその内部で改修、パールの浄化装置等も考
えられ——、それから社会教育の指導強化につ
き——は実践運動の甲校にするの公民館関係

人々からあるいは社会教育担当者であります。その
めうの強化、これら下基本財の計画といふこと、そして青
少年、婦人教育の強化、保健体育の振興、この二本立て
にしてそれらの実施計画下へてなわけでございます
す。その間、体育の年次別、諸事項につまづいては
課長へう説明させていただきます。

議長（山本 昇一君）暫時休憩いたします。

午後二時五十分休憩

午後三時五十分再開

議長（山本 昇一君）休憩前に引き続き会議を再開します。
なお、いまの教育計画につきまゝは教育長の説明
で足りるとし、あと質疑応答を行なうと思ひますので御

了承頼いたと思ひます

(福祉事務所長長谷川六治君登壇)

福祉事務所長(長谷川六治君)福祉事務所関係の建設計画について御説明申しと致します

建設計画の關係としてあります第一、第二、第三、第四、第五、第六の各頁でその中に民生計画として掲載してありますのが私どもの仕事は国、地方、関係予算に、その相当の刊約、数量等も制限をしますしこの計画に計上できないような経費は大部分でいふますので計画に計上してありますのは理況分抄とおろそかに被計上せずと結果率々行われっております各種の市主催の行事が大部分でわけてありますもので御説明下申しと致しますと民生倉庫の關係を率々計画してありますのが現在二八万位の経費で本

当の園、であるが、ごく少額の金で、急時に貸す
こととや、であるわけですが、これは非常に利用価値
がありますので、これ下百円までいい、かように
考えて、四〇年度まで、七十五万の資金に補充したい計
画としております。

それ、もう市の養老年金として、条例で設定下して、毎々
支払、てあります。大体二十、二万のもの、下ず、と毎
々将来とも差、していい。

それ、もう子供の遊び場として、遊園地よりも相当小ま
な、単に子供が遊ぶ遊び場。を、資金として、計画年表
中に十四ヶ所作り、たい計画下してあります。そして
資金下それ、一ヶ所、削して、一ヶ所、程度、もの下計、と
して、四一、五年、から四五、五年、までの、中、に、二ヶ所、ずつ
設定下、たい、たい、か、ように、考、え、ます、総額で、私、と

もの方は七十八万円で建設計画に盛り込んであり
ます。数字をご説明します。この中で四〇年度に母
子専用アパートとして六百万円を計上してございま
す。これは建設計画関係の住宅計画として私ども
で考えたものでございます。母子家庭は非常に
住宅あるいは収入に困つておる、こういう人たちが
将来でてくる人ではないか、現在もおおむねで
すが、この人々に対して一戸だけのものを置く、長屋
建てと申しますか、アパートと申しますか、大体二〇
から三〇世帯位のもの、下収容、いろいろ、かような
考えで考へたものでござります。それで計画してござります。
それからこの計画にのうまいもので、すでに作成時
と事情の変更として取りますもの、二つあり
あります。一、部変更によつて後刻それと措置を

いり、この考えて、予すが、船形地区に於て
予て私立の保育園を廃止にする、こういう通知
を下うけ、わけですが、私どもは三十七年度に於て予し
てしまふ、その前半に定員一〇〇名のもので作りたい
考へて、すが、これは国庫補助等の肉保、この期日等明確
にできず、人が子供等の場合も考へて、これもろろ
ん幼稚園の拡充等もあるうと思ひます、すが、保育に欠
ける、こういう観点も考へて、法律の定員一〇〇名
のもので、予すが作りたい考へております、

それ、この精薄施設につくまゝ、これは本年度特殊学
級の研究と申します、三万円の補助として特殊な
教職員の方に、その措置技術等の研究をしていて、い
くことになつております、すが、この校舎は依然として省
借りでございします、私どもとして、これを相当拡充

していのりけはなうない、こう考えておりました。けれども予定の通りには施設が便をなくしてしましてもう一つは三十七年からの特殊学級の設置というものが相当強化されてくる、こういう観点もからみ合えて三十七年度以降に相当大きなものになります、いさゝか、こう考えて計画を立て、おぼいす。あとのものはお読みいたしますればわかるように、ごく簡単な金額も多いものでございます。その点によつて御承知願いたいと思います。

(厚生課長伊藤幸太郎君登壇)

厚生課長(伊藤幸太郎君)衛生計画につきまして大要を申しあげたいと思います。

衛生計画は大きく分けて予防衛生と環境衛生というふうに考えておられます。予防衛生に

つゞきましては健康診断、初行あるいはまた結核予防
 の診断、初行それらハエ、カ、の駆除、そういふものがある
 と思います。環境衛生の面におきましては当然然
 肉題になり、ますます迫る問題といつて、
 重点的に――尿処理場設置の問題に重点を考へて
 所をめぐらしてまいります。尿処理場の件につきま
 しては前回の議案にも御説明申し上げたので、一応省
 略させていただきます。ますますすけいとも御承知の通り、当面
 の重要問題でございます。三六年度並みに七年度
 の二、三年間継続におきまして、でき得る限り早く実
 現したいと思つております。すなわち、
 次の問題といつて、――それは隔離宿舍問題でございます
 下、これは一応当初予算には計上してあり、まゝなけられ
 ば、実施計画書に下ります。――三六年度中にできる

だけ建設下実施いっ—たいという計画下織り込んで
ございます。この隔離病舎の建設につきま—ては
過去におま—て若干の向題バござい—たけれ
どもできるだけそれらの向題下解決い—ま—て
三度中へできるだけ実施い—たい計画下も、てお
るわけでございます。

次に三十七年度の計画でございます。考えま—て
おります。坪とい—ま—て三十七年度は処理場の完
成年度でございます。従い—ま—てこの機械に
バキュームカーし尿の汲取車下一台購入い—ま—
て学校その他公共施設の汲取り下い—たい、
一般住民の汲取りにつま—ては考へております。
けれども一応この処理場の完成の時は公共施設の
汲取り下い—たい計画下も、てあります。

あとはい、九、四〇年あたりから先けと申して
 小ま——と環境それから予防衛生、面からつぎつぎ
 ていくと常的な状況で伺うとせたいという計画で
 ございますのでとりなて、大まか事業はあります
 のを計画書で御覧いたいたして御了承願います

(総務課長 山口 実君登壇)

・総務課長(山口 実君) 実施計画、方には予算、数字はの、てあります
 せんが一応機構整備について御説明申してあります

現在館山市に五ヶ所の出張所がございます、現状をみます

すとすむべきことは理況分析その二つ——一、奥にやとござ
 います、がゆく——は、この出張所を廃止いたして、一、
 一、のちの建物で社会教育活動の場として公民館活動の
 本拠にしないと存じます、それから事務処理の改善
 関係でございますが、今考えておりますことは市で

も、この種を利用している乗用車等の問題がございます。
このうちもの下へ所々集中管理というところ、燃料
の購入等下へ所々で購入というところ、と至貴の節減に供
していただいております。

次に文書管理の関係でございますが、これも集中管理
の方向へいこうとして、一応総務課で管理伝達等という
検討を加えていただいたいと思っております。以上でございます。

(消防署長 安藤 亀吉 召登壇)

消防署長(安藤 亀吉 召登壇) 消防関係につきましては簡単に御
説明申し上げます。

一言にいいますと、すなわち国で消防力の基準というものを
示してございます。ところが館山市におきます消防
力というものはこの基準に対して、すなわち、さる遠
いので、この五ヶ年下通じて示される基準に

一歩でも前進させようというものでございます。

特に新大に計画されまして、このところ三十七

年度におきまして自家給油所を設置いたしません。

それは御承知の通り、市役所関係におきまして大い

の牽連を二台ございます。消防関係で四台も、そ

ろあります。それ以外軽二輪オートバイにハル一五台ござ

います。計五五台、市役所関係でも、そあります。然

量でございます。この燃料というものは膨大なも

のでございまして、以下消防新方舎でございまして、

に自家給油所としてございまして、これによつて給

油することが市の経済的にすばるプラスになるとい

う考えがございまして、三十七年度に実現したいと

たい。三十八年度におきましては、この五五台という

車両、今までは各メーカーに修理を委託してあり

了—が、この修理員も膨大なものゝ支払われて
おります。そのうちの約半分が工賃に支払われて
おります。これに消防職員の手によつて修理工場
と新方合の裏に設置いたして、了—でさるだけの
修理はそこで行いたいというもので三十八年度におき
まして車の修理工場を設置いたし、
三十九年度におきましてはたいしたものはいま
せん。最終年度の四十年におきましては都市の
中心部に大災報知器一〇〇個を設置したいといふ
ふうな計画でございします。これが大まかな計画で
ございします。以上簡単でございしますが説明を終り
ます。

・議長（山本 昇 君）以上で説明を終り了—た
暫時休憩いたします。

午後三時ニ〇分休憩

午後三時五〇分再開

議長山本早冠休憩前に引続き会議を再開します

大いいますで説明がありましてこの定款計画書に
対する質疑を行います

おはりのいます。質疑の順序でござりまするが

この計画書の第一頁にあります実施計画の方

針が一、二、三、産業の振興に関する計画、三、交通計

画と七項目にわかれておりますので一項目ずつ順

序を進めて行いたいと思ひます。御異議ございま

せんか

「異議ナシ」と呼ぶ者あり

議長山本早冠御異議ナシと認めます

さういふ順序で質疑を行います。
一つ、実施計画の方針に対する質疑を行います。

○三番（脇田順一君）大体全部にわたる予備的の質疑ですが、
こうして実施計画下市制においておさめにせよといふ
に、これは補助金下もいうための意図であるとする
はうは私は通らなうといつてます。一へしこ
以下本質的に考えらうといふにも変ひ無しであり
ましていろいろ予算、関係など今諸課長が説明したの
は今直ちに必要の案件下予算などの関係で金がない
から四年まであめの棒のようによろしく延ばしてはふ
り込んでいふような配列だと思ふのであります。
いふは、無計画では困るけれどもまた一面へう考え
てみると今後変わる世相に処して生きて動いてい
る現象に対して行政的の措置というものは定めてい

ければ意味下はない。飛んでゐる鳥の下から捕師
 が射止める。そうして行政に下すもののは、そう
 いう心配を必要だと思ふのであります。あつと世相
 が変わるにないで死んだ鳥も落すやうなやうなが一
 先二年先というものでなければ、予言するとは、あそ
 うくでまはないと思ふのであります。だから今頭に浮
 んだ構想下配列したに過ぎない。まことに意味の
 ないものだと思ふ。国家としても農林省が、この計画
 はやりであり、そして緻密な計画を立てるにしましな
 ければ補助金下くれない、無計画なその場合、もし
 困るけれども、また甚だしく世相が動かない死んだ鳥も
 射止めるやうなやうな無能な行政に下すもののは
 行政官も困るもんです。い、ない、ない、う、う、と下
 す、と、とういう意味があるのか、市長さんにお伺いした

いと思ひます。

市長(田村利男君) 脇田議員のお説きことに結構でございます。市といつて、五ヶ年計画でも五ヶ年計画で、逐次世相へ移り変わることに弾力性下もつていくことがあつても可能でありますので、そういう方針で進みますと思ひます。

ニ番(脇田順一君) 大体市長の気持はわかりました。あつて、これと云ふけれども、いふ、これと云ふ、いします。

三番(森生田七郎君) 大いいます。答へで弾力性のあつて、運営下やるといふことは、より確認してある、あつて、弾力性があるといふことは、一応この計画はいつて、ゆる方向指示番であつて、いつともこれに固執されない、いふゆる基本的なライスは、これであるけれども、情勢

の変化によつては随時随所々適宜な予算を盡し
てあるいは消える弾力性の運営を行われる。こう再
確認してゐると思ふのであります。

市長田村利男君 あくまでも果と相談してやうなものとして
果は館山市に対する指導をあらわすと思ひます、私に
あつた今、急にある大なる夢、やうなことをして
うという希望をもち、あつても果はどうかとも今の
館山市には例えは館山市へ三崎まで海を渡すにネル
と作る案がだいたひの場合不可能だということらしいと
思ひます。これは大げさであります。さういふよう
なことで果の強い反対をうけない限り、私は弾力性
をもつて整備してゐるまいかと考へております。

三崎(養父田村)君 了解いたして、たゞ私に受けること
ころはプラス面についてはいわゆる果と即相談します、て

果、裏付け下得たということは将来起債とする
場合あるいは果、貴国庫補助下得る場合にも果が
積極的にこうした面は配慮してくれる、やりやすく
なる、こういうプラス面はあると思ひます。しかり同
時にそれに東縛されるおそれが多分にあるというこ
とはマイナス面において考へられるのでありまして
その点は固く要望してあますす。あくまでも四維
針盤であつたかように解説したい。

もう一つお伺ひ——このことは従来新市町村建設計画
のアウトラインは一面のさうもうてくれることがあ
ります。すべくともこうして五ヶ年計画という大事な
重大な計画が樹まつれ果がこれ下認めたいというこ
になる以上一右の方角が指示される、これは市民に
おいても市会議員に對しても大さう関心事だと思

うのだけれども、これに、くろ過程において、市会に、対してあるいは、市町村の建設審議会に、対してもう少し、具体的な、サメて、アウトライニ、ビケでもおは、おりに、な、ても、審議会委員、市会議員、それ、の、主場、で、考へ、述べ、う、れ、それ、が、き、め、め、て、適、切、な、あ、る、い、は、よい、アイ、デー、ア、が、あ、る、場、合、に、それ、を、取、り、つ、れ、て、詰、肉、し、て、も、う、い、た、か、つ、た、と、い、う、こ、と、を、思、う、そ、う、い、う、過、程、を、全、く、あ、つ、た、と、い、う、こ、と、は、私、は、市、と、い、て、は、大、ま、な、自、信、を、も、つ、た、と、い、う、こ、と、が、い、得、る、と、思、う、の、で、す、が、同、時、に、議、員、自、体、に、も、疑、念、不、安、と、い、う、も、の、を、も、つ、て、お、ら、な、い、で、あ、る、か、う、議、員、の、主、場、も、も、つ、ケ、レ、尊、重、し、て、ほ、う、に、あ、つ、た、果、の、認、定、し、た、の、ち、に、お、い、て、具、体、的、に、わ、れ、に、は、あ、つ、た、こ、う、い、な、態、度、方、針、に、お、い、て、い、ま、は、私、は、不、満、と、申、し、ま、す、か、も、う、ケ、レ、そ、う、あ、つ、て、ほ、う、に、あ、つ、た、と、い、う、気、分、が、あ、

以下する機会下もたなかつたこと下私に認め
おめ申します主案したものと下審議委員会に
のけ審議委員の構成は議会議員五五人あるいは
農業委員各種代表何人それにかける、もろろん
きのう審議会下や、てきよう本会議にだすと、修正
のしようもないといううみは確かにございます。
しのしなわ市会議員代表五名入った審議会にまづ
おはかりしてこの市会全体に審議してもううという
建前でありますのでそう間違つてはいようない
まいります

三〇番(殺生田七郎君)私のいわんとするところはさうい
当るのお者とまいわゆる市当るはオールアイティだ
市当るのやることは立案することとは完全に近いもので
あ、て努力して作り上げたいのだからこの提案に基い

いて審議するのだという観念は、私に考
えが、あつてもういい、少くともこうした重大な
五ヶ年計画が立案せられて市の大綱が定まる
道が、さうあるという案件であります、その事前に
せめて全部でなくとも一応のアウトライニアを示し
下さつて、さうして市会議員より審議会委員より
してよい案があらう取り入れて果の認証を得て
さうしてあらうにすればいい、案ができたのではな
い、それで授言すれば市会より審議会と、立場
を一先のプロットでよく一先の審議してもらう機
会がなく、いわゆる市会議員の発案権というものが
あつて、もう少し尊重して下さつて、さういふ
ことではないか、今後もあることであらう、さうい
ふ、さういふ、特段の即配慮を願いたい、さう

いう意味に於いて申し易いのであります。この亲身体につまみましては長年にわたる、大くうした具體的の研究を遂めうれに勞苦に對しては心から敬意を払うものであります。又エであります。

二番(里川佐太郎君)本来に對してお尋ねいります。私の五ヶ年計画なるものはこの五ヶ年に於いて文化都市としての諸般の施設などが充たされ躍進的な面目を一新するやうな市になる。こういう考え方をしてゐるのです。ところが實際問題では予算その他上司の意見、監督官庁その他の關係で出来ない。事務的でもうになつたといふことと、この来下みまして、実は私は一抹の不安を感じてゐるやうであります。しゝ事情がさうであれば、これはやむを得ぬこと、思ひます。大い憂うる事

は市当局の腹はわかりました。がしもの議場で
議決したものであります。すべて本年度当初予
算下編成するところ市としてはいくらも、と
やりたいことがあるという場合にそれに抱束され
はしないか、これに憂うるものであります。
この点はいかにいふものでしょうか、

市長(田村利男君)おそうく抱束されることがあると思ひ
ます。――しかし館山市におきましてせうとも必要な
ことと起れば大いに反抗して排除するものと努力す
るということは可能だと思ひます。

三六番(嶋貫杜作君)遠慮なくにお尋ねさうしていただきます
が、一体どういうものか下議決しはつければどういふ~~議決~~
いますか、市会議員にあつては、その点をお尋ねします
助役(小出利男君)これは新市町村建設計画促進の法律によ

りきゝて議會議決下をやりぬばなうまいといふことになつて取り直す

ニ大臺鴻貫杜作君一議史ト一ザリハバサウザハニウいうニ
ト下ありハ簡單ト考之過ズヤ一マヤンカトイフニ
トハついで相同ワ一マヤ

取役(小出武男君)　　「……いま、法律によりまして審議会に」

議決下至于一の仕事を急ぐ事を急遽議

金に援来しやうでございまして議金におろして皆う

人の慎重は御審議下所頼にしていりてござります。

簡早に考えているわけではなひと下申一エケます。

三六番鴻貴壮作君 しからば今日たいて今日まめるとい

うゝとは御無理、さうに考へます。これが一ツ。

もう一つお尋ねの事
3/4が仮に心臓が暴に報告

ういふが、提出されるより、三、四、五、果も、ち、う、人、族

討するでございまして、例之は新たにやろうとい
うは事、それのうちに訂正してやうなればならな
いというはめに追ひまねたところ、果ては市当局に伺
つてお前々の方では市議会の協賛するまで行つて
いないが、それに沿つてや、ならうやろう、こいういふ
うな事態が起らないとも限らない、その場合に責任
はだれがとりますか、

市長(田村利男君)それは情勢変化によつてそういうこと
が起り得ると思ひます。しるしから例えてみれば
合併、と云ふの五ヶ年計画というものが、果て事の
調整の下に計画されたものがあつたわけ、私が六
ヶ年前市へまゐるときに合併五ヶ年計画というものの下
相當高く評価されてゐりました。例之は四中の問題は
昭和三五年に新築すべしといふことであり、まゐるが

あゝ當時確に昭和三一年に情勢の変化と新築しつと
 思います。その時にも果はあくまでも合併五ヶ年計
 画というもので認定していつかう当時少く文句はあ
 ったけれども文句はほか、大という前例にみまゝで
 も議会の議決というものはあくまでも必要でありま
 す。その後議会の更に議決しなひて果の五ヶ年計
 画には反するけれども情勢の変化で必要が起るに
 場合にはそういうことはできると思います。またあく
 までもできない時の責任は市長にとるべきもので初は
 思っています。

二四番(江田)徳太郎君 この書案を作つたために基本調査会折
 と日時と費——まゝして立派な計画を作つたことは認
 めます。が、これまで作る前に市会議員の中にこの面にい
 ろく構想も、大ものがあると思ひます。であるのに

その反映がなく議会におきましてこれ下認めろといふやうにも考へられましてこれが全般的に認められればなうないのか修正していいかということになります。その点下伺ひたい。

市長田村利男君　あくまでこれは案でありまして議会を通じて初めて計画書になるわけでありまして、従いまして議会で慎重審議願ふことであり、し御研究によつて修正すべしということに議決され、は市当局におきまして変更するにやぶさかではありません。

三四番（松本藤太郎君）四〇年度までの計画されたわけですがこれはその年度——で一旦切り出す当初に予算で定めるわけなんです。その場合にこの計画と異なつたもの下ですという場合で参考と思ひます。そういうとまゝ事前結果の了解下得ておられれば変更

はでまひいものであるが、その点一つ同じます。

それへういふ一つ市長さんへう果の指示ということ下
強調されておゝ、なようですが、おろんこれは補助下金
な事業、場合はそうでありましたし、うおし、市員
へあいて行われるようなもの、そういうようなもの
にまでこの計画下で、以上果の指示というものが
大きく影響するのであるが、その点一つ、以て二
点について

総務課長（山口 実君）松本議員、第一点について御説明申し上げ
ます。変更の場合でございまして、あらうと当初
予算編成の場合に、お事と協議します。こいうことへ
な、おおります。そうして、こらうの意見によつて、こ
の計画が変更されることになつております。

・助役（小出武男君）今の内容にあつと補足したいのです。

この計画書として変更する場合に、変更の申請をして認可を全て変更する。これにない計画が当然にあると思います。その場合は、いわゆる新規なものとして市の立案として変更の必要はないと思います。それの立案あるいは国からの制約の問題ですが、これは事前に協議してごまかす。この協議の対象は主として補助起債という面が主たるものと思います。従って、この計画に制約があると思います。この限度内にあります。これはすでに協議済みでござい。ますので、細かい制約がないと思います。第一向で申し上げます。その事業を変更する場合、変更の手続を下してやる。新規なものについては従来の予算提出のよう、新規は市の精想として、もっていくという点に注意を要します。

三四番(飯田義男君)より第一にこの計画下実施することにより、
 よってどの程度の利益があるか、あるいは新市町村
 計画は、どうしてもやらなければならぬはめ、
 によって、この利益を考えておやりになる、
 のか、それが一つ、この新市町村建設の中に入らずに、
 市が独自の県の采配を受けないで、いろいろ計画下
 進める行政下やること、が、できなかつたか、という、
 それから、この盤うれてある大体の計画、予算というも
 の、がいりゆる事業費の全部であるか、乃至は、この計
 画以外に、まだ相当いろいろ事業下やるだけの弾力
 性、あるものがあるかどうか、

。助役(小出義男君)この計画とは別に、市独自の県と協議し
 ないで、たて、いく、という、こと、を、ご、います、が、これは、も
 ろう、んで、て、いか、まい、ま、せん、が、促進法による計画で

はないと思ひます。ですから促進法によらうない計
画、市独自分でやることは自由でございします。
計画にも、ある事業が全部、という意味でござ
います。これは当初、う申しますように、もろろ全
部でございします。各課長が説明します。たよう
に重要な事項に重点が置かれてあります。
このほかにも当然、いろいろなことが当初でくること
は予想されます。いわけ、う申しします。よう、
弾力性あると申しました。が、予算の編成、あ、う、
は、これだけで終る、う、は、当初予算は、う、め、て、簡、単、
で、ございします。これは事業の骨子と、なるものでござ
います。て、これ、つけ加え、て、その、年々、に、起、て、く
る、新、する、新、題、の、は、事、起、る、であらう、ことは、当然、
予想、される、と思ひ、します。

・四番(飯田義男君) もう一つ残つてゐるのですがこの計画
 をやることによつて市がどういう利益をうけるか
 もう一つ先ほどの質問結局弾力性があるということ
 ですけれどもいゆるべき常費的な人件費等が全費
 のどの位のパーセントに占めてゐるかということ
 いうことは事業に對して三億なら三億というワケが
 あるだけけれどもその中、何に當るんだという数字が
 どのくらいな、どう放さるゝといふことだ。

・総務課長(山口実君) 一向のこの計画をしてゐることによつて市
 の利益もなうすといふかという質問でございます
 この計画は新市町村建設促進法に基づく計画でございます
 してこの法律は三十六年六月三十日まで適用になつて
 いるのであります。従つてこれはこの計画でなしに
 市町村に對しては國の補助金といふこともして事務

貢として十四万四千円 事業貢補助金として二百
八十万円 市に交付されるのでございますが、こ
ういふ場合には、こういう補助金はいくらに
なります。

市長(田村利男君) 飯田議員のおっしゃる方は市全体の件がゆ
うなところだと思っております。そのことについては詳細核
討してございまして、最後の何名位盛るとあるかとい
うことはあさうく九名のようには感じられるので
あります。さうな一〇名の余裕があり、さうな一〇五名な
らば、五名の余裕がある。こういうふうな考えられます。

助役(小島武男君) 今の飯田さんの質問ですが、何名ということ
は、はつきりしてあります。その詳細は計画書の九四
頁に全部でございまして、お覧願います。

三大委員(鴻貫祐作君) 今聞くと、さうなより、さうな二百何万への補助

金 それ下も無いので、やると、何かに、もろろい
、点があり、うけい、と、やると、みて、う、つかえあ
ません。

・総務課長(山口実君) 一応合併して、新しく、生れ、町村は、この
法律によつて、こういう計画、下、てる、こと、になつて、ある
ので、お、い、ます。

・三六番(鴻貫壮作君) 今、下、てる、や、て、い、ても、が、今年に
なつて、初めて、な、てる、という、ことは、無理、の、よう、にも、思、う、し
、この、内容、に、向、ても、例、え、ば、予、想、でも、て、やる、位、置、置、者
り、が、う、め、て、ある、の、で、す、が、こ、う、い、う、も、う、了、解、も、う、け、て
ある、か、

・助役(小出男君) 法律、で、す、か、う、の、ま、全部、ど、う、い、う、形、で、と
いう、ことは、い、え、ません、が、国、が、建設、計画、に、な、て、町、村、に、対
して、援助、する、項、が、法律、に、な、て、あ、ります、市、町、村、が、この

計画下でたものについてはいくら促進するつもりか
いうことは今野にわたって援助するという法律の現
定をどういふか 促して、そのお話しもどうい
うかのように簡単に計画下でたものじゃなく法律に
よって計画下でたもの、そこに意義があるわけでは
ない。——てもその年々やうなわけは補助金の恩
惠に欲するといふいう年度であり、——でそれと千ヤニス
として計画の初年度にしろわけをどういふか——で考
えよう、それは補助金がいらないから始めたとい
うことと下いわけでも仕方ないのです。がいつか申し
たいと思つて下わけでもやはりこれを、のりとい
う。——で市としてはこうして計画下持つことと
行政で本當に官公的のやうなことに受だつてもあ
るかと。この計画下やうなところになつたので

まいります

○三六(鴻) 母兄(作) 兄(君) そういう細い点までは議員としては研究してゐるべきはずなのであります。私には研究不十分のためでござつた、でござつたといふより知らなかつたのであります。これとあつたになつて抽象的、利益があるとかないとかいふような問題で片づけろといふことがいふかと思つた。さうもいふたかいい、さういふよう、議會下あつて輕うんど過ぶるという結論に到達しないわけにはいかなくなる。そこいふ下、所考といつてしまつて、善処していただくまい。

○市長(岡村利男君) ちよつと答弁が過ぎるかも知れませんが、この審議會下作る場合に半年前、さういふもの、市やうなわければならないので、審議會下作りないう市

の議会で推薦してもらいたい。こういうことと下申し上げ
たこともございます。

三六番（嶋貫社作君）それはそうでありましてけれども、こ
う法律によつて、こういうものを作つていくと作つ
ていけば、こういう不便な点もできたりけれども、こ
ういう便利な点もできると、その時に御説明が願
いである、それで。

議長（山本 早 君）方針によつて、その御質疑の下に、辺で
打ち切り、そして第二項と、その産業振興に關する
質疑に移りたいと思ひます。

二六番（石井 孝 君）これは、みまうとサイロ下、うえろに
ついて、それで行うのに、三八年九年と、なつてゐるよう
です。でも、七年のうへ、更へて、いかに、いかに、いかに、
それでは、我々、農家として、このまゝ、いままう、すくと、曲り角

へまてゐるといふことと下皆さんよくあつてゐるのですか
 曲り角にまてゐるものつと三々年度まで待つてという
 ことはわれわれとして耐えられなないのであります
 もう一ついゝますやうば三々年度に行ふことは乾
 草の下つてゐる、どううといふことと下いゝてゐります
 けれども、立場でいゝますとサイロが重点にし
 ても安くよりして、その方がより以上の効果的で
 あります。また乾草の下乾燥機でしでかめられ、場合
 におそく虫く食われ、て利用価値がなくなるやではな
 いと思ひます。

農産統計課長吉田耕一君 回答に申し上ります。

三々年度以降にあらうとしてサイロの建設計画下
 になつてゐるにござります。従来もいゝろく関係地
 域の要望もその部落の状況等によりてサイロ

の建設下実施してあるわけでございます。こゝ、
数ヶ月後には農業基本法等の通過もみられる
のではないかというふうな考えの下、実はもつてあるわ
けでございますが、そうした面にあるところ、基本法
通過後にあるところ、そのサイロにあるのは乾燥機等に
あつて、これも繰り上げて計画変更下にあるところ、実
施の段階とも、参りたい。このような関係が
農業基本法の通過下と、実施のころ、という
ふうな関係で、またそれが相当な下つて、そうだと
いうことも一応考慮いたして、入年度以降に計
画下盤、なと考えてありますので、御意見の通り基本
法の通過下待つてやれば相当作る上について、援
助というものが得られるのではないか、こういうふ
うに考え、つて基本法に関連性のある特々、こうし

たものについて計画から今回は除きまして通過後に追加して参りたいと考えております。

・六 釜石井 春君 確約していただきたいと思います。
・農畜統計課長(吉田耕一君)より「やうございします」。

・二 田舎飯田義男君(農業基本法の改正とともにこの計画が相当な変更があるかもしれないということになります)ですが、そうした場合、ある程度予算というものが組まれていかずければならぬだろうし、また国もそれに知して相当です。ことになると、思います。すが、その場合は、ある程度強力な方法でこの計画下変更することになると思います。そういう御意志があるかどうか、それと同時に果てはこれとは別に考えていくであろうか、かという点と下、伺いたいた。

それと、この年次計画下みておりますと、大体やうなわけで

ばなうぬことば総花的の、ておるのですが例えば
錦山市は将来観光地として伸びるんだ、しーな
の産業の発展はという方向に伸びていかうけれ
ばなうぬか、そついう最も重点的な方向というものが
この計画の中に非常にうすいんじゃないか、こう考
えらうける下、例えば林道農道下作、その林
道下作、たまうに早く林道、開発計画の下せ
ると同時にその先の山地はどのような開発していかな
ければなうないか、という関連性下も、一貫した
計画に変えてい、のではないかと思ふのである、その
点についてもう一回御説明願ひたい。

農産統計課長(吉田耕一君) 最初に農業基本法通過後にお
けるところの農林関係の計画が相当変更されるという
ようなお話でございします、確かに私もそう

考えておりましたして相当大まな顔の面につまづいては
 増産変更でございせん 私大町の考えはこゝにうれは
 計画が全部実施に移したい、また農業基本法に
 よりまずとこゝの計画を新に追加変更して願ひ
 したい、こつうふうに考えておられまた果等にあら
 づいてもそのように強く要望してその要望に允え
 ていただくべし、このように考えるわけをございします
 第二回の果もやはりこつうして計画にすぎずして私に
 ろと同様な考え方で基本法通過後におましますとこ
 ろ、農林業の振興計画というふうなものでありて
 全面的な協力をお願いするといふふうな回答を求
 めておられます、それから林道あるいは農道等の
 開設後における肉連骨でございします、が本計画
 におろすところ十分といふ、かねると思ひますが私

たらの現在、財政状態からみまうて、年次計画で
は十分の関連性下も、大計画というふうな考えを
ります。林道新設というまうて受益面積の面
からみても、その上面の伐採跡地の解消、あるいは
栗野の山、山等。解消も、その程度はうて、得る
という考え、造林計画等もござりますので、ある程度の
関連性は考え、大計画であるというふうな考えを、わけ
でござります。なお、その他、農道関係につきまうても
農道新設後、あるまうて、今までも、労力的な面の
節減、あるいは、その基、まうて、いろいろ、肥料、肉
俵、栽培等による増収の計画というふうな面、十分
とは申しかねます。私、たちの研究し得る程度は、織り
込んであると思ひますので、まうて、その計画、まうて
て、御審議願ひまうて、お目ざすの御意見、下、お伺ひし

計画変更等は実施いたして考えております。

・二四番(飯田義男君)それらも年次計画下みると三五年度下基準としてその後六、七、八年度と減々ともあり農産関係の計画はふえていっているのですが市長さんの方針なのかどうなのか、それと細かい問題であらうと思いますが、せ、かくこの計画下りせても部落によって負担能力がない、そういう場合にせ、かくの計画ができていない面がでてきはせんか、こういう状況は市としてどのような考え方をもち、できるだけ完成するよう補助していくか、万やむを得ずあるない予算の残余の分についてはどのような措置をと考えているか、

・市長(田村利男君)そういう場合に部落との折合いもあり、また部落負担金なしに事業を行うというこ

とは避けるべきだと思ひますので私は避けていと思ひます。年度によつて三億とか四億示してゐるすすがこれはあくまでも数字的なものであります。算のゆく内で政治性のない数字をいふのであります。結局は館山市の実態はこの通りでござります。そこをいろいろ色下つて政治下つけてあるのが今の姿です。

。二四番(飯田義男君)結核負担能力のない部落にはやらないといふことになつてゐるんですが今の答へですとそれ私の申し上げたいのはそういう負担能力のない部落に対しては融資の方法とか何らかの形でその事業がござるやうな援助協力指導というものがあつたといふうちに考へていられるか。その点について課長さんから。農畜統計課長(吉田耕一君)お答へ申しあげます。

実施する段階の年度におきまして部落のいろいろの
 全済状態等によりまして負担が不可能だという
 ような場合現金負担がでないというような場合
 であつても道路あるいは水路というようなもの
 作ることによつて部落の効果がある、増収する
 というような点が考へられます、また分折等によ

りましてでもできておきますので、そのした現金の負
 担がでないというような面につきましては融資
 の面、それに対して、利子補給というような
 面も織り込んでおきますので、お促進法によ
 りまして、一お果と診合いもできておきます
 そうした面につきまして先日お申し上げする三
 七年度以降につきましては利子補給というもの
 が廻り始めておりますので、そのした計画下実施に

移して考ふるように努力いたしなうと考えております。

。三一番(田村喜兵衛君)質疑打切りの動議下提出いたしております。

議長(山本早君) 三十一番質疑打切りの動議で丁が

第三項の産業振興と肉すの質疑下一つ打切りまして
て次に進出にと御異議ございませんか、

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長(山本早君) 御異議ございと認めます。

よって第三項に移ります。

暫時休憩いたします。

午後四時五十分休憩

午後五時十分再開

議長(山本早君) 休憩前に引続き会議を開きます。

おけりいります。各項ごとく質疑という御承認を得ました。あとの項目は一括して御質疑願いたいと思います。すが、これに御異議ございませんか。

(異議なしと呼ぶ者あり)

議長 山本 早君 御異議ございと認めます。

よって第三項以降を一括して御質疑願います。

三委三次 節君 地域的な問題になります。すが計画について、ちよつと心配になります。るお尋ねいたします。

館野小学校の講堂の件でございます。すが当然四々年まで計画に入ると思つております。たところ、本日みすすと全然入つてあうまい。

この館野小学校はすでに市長さん、助役さん、教育長さん、地元代表と合います。して市長さんは三四年度に三年後にあいて建設する、という言明をなされております。し地元の人もその

つもりで着々と準備にかゝつてあるつもりであります。御承知の通り、館野小学校は震災前教室として建てたもので非常に狭い。老朽しておる。そこトモルタル下ぬ、でもたしてある。現在でも非常に雨漏りばかりであるという現状でございまして、当然この計画に入、ましてはかるべきものが今回は落ちたりしますが、この点について教育計画下りまいた責任者としてどういう考え下りも、であるのか、またいつこれを新築して下さるのか。そういふ点見通しがないければ、館野地区民に対する信頼性というものはうすくな、てくると思います。すがこれに対する即答をう願います。

もう一つ現在、社会教育は重要視されてある。三万以エの人口において、は主事下置、はけりれば、うな

という法律改正がありなうもさうなそういふ計画
画がなされてあるまい。ことに現状に於いて青少年
育成問題についても専門的な人下置く必要がある
のではないかということも考へるべきであらうがこ
ういふ計画がなされておらない、この二点について御
質問いたします。

・教育長(工藤和幸君)に答えいたします。

第一点の館野小学校の講堂の問題でございますが

私も考へ方といつては先ほど申しあげました

やうに教育の問題点には非常に多いのでございまして

その中にももちろん入つておられるでございまして

でありまして順序といつては何かと申しまして

教育現場に於ける用ゐるところへ普通教室特別

教室 複式内容 小に優先せぬやうなうといふた

「よう」現状でござります。取壊等々、くらみ合せて遺
憾なべうは下れたのでござります。すけれども将来にお
いては考慮すべし問題だと思つております。

第二点の社会教育^{主事}の件。問題であります。けれども
お説の通りであります。国、精想の中に社会教育
指導者の強化という点で強調いたしております。これ
はむしろ人々要をござります。が松本深長が社会教育
主事の資格を有しておりますので、これに頼つて当分
や。といふ。こつた考とでござります。

三番三次第。その点については了解はいたしております。が市
長さん、地元代表は、さうとお答へになりまして、
その言葉で地元民としては非常に信頼して下さと思
います。が市長さんの考とさう一日お聞かせ願ひます。

市長田村利男君。確かにあつた陳情のあとに教育委員会に伺

って地元民の意思下尊重せよということに命令いたす
ておられます。あくまでもこの案は弾力性のある案
でございまして、また必要ならばあれはどのようなふうにも変
更いたしますので御了承願います。

二番(萩生田七郎君)教育長さんにお伺いするのです
が、これは例によつて思向だとおっしゃればそれまでです
です。この計画書によりますものの全部教育費とは
申しません。寄附金も大部あるものであります。これは
特に教育費に多いのではないかと思つてあります。
お例とは本年年度の九百万、三七年度で千四百万とふえ
ております。これはもう市長さんもお認め
申してあります。これはもう市や町で得た
過剰金、現在こういう条件行為で受けておられ
市財政によつてまかなえないのだ、これは変則のもの

のぞと思つたのですが教育長に特に伺いたいので
すが地賦法によりますといわゆる案は金という
ものは増刊してはいけないうことと下は、より
明記してあります。機会均等下モットーとする
教育責任とはこれは公責によつてまかなわれ
なければならないといふことと明記してある。その地
賦法に目下つづいておるというのが現実の姿なんで
す。その点でこうした変則下原則のやうに解
釈し錯角してはいけないうと思つたので今後そう
いふことと下避けていかなければならないと思いま
すがこの予算下みますと大分多いという状態この
点についてどう解釈してありますか。

教育長 工藤和平君 地賦法につきましては今うお説の通り
法では、より示してありますのでこれはわれ々と

いたゞきも本に目につくとやるべきであると思つておりました。で、これ以外について、事は行為のある場合に於いては、これは教育の向上のため、私どもは喜んで受け入れるつもりでございます。又、各学校の均衡と申しますが、これは生徒の数による均衡でございます。――で、端的に申しますと、学級数の多い学校では、それだけ、備品が、施設も必要とするわけであり、また、その小さい学校と、大きな学校と、まんなく行くという意味ではございまして、生徒の数に比率した施設、それが将来は均衡化するようになるという点に留意していただければ、でございます。

二。番（教頭田中郎君）喜んで受け下ろすというところは、ちよつと、おもうかと思つて、す。そういう御答へを、

することはどうかと思うのです。やはり法は法であり
ます。かう遵法せねばならぬ。ですから現在の過渡
的は経済状態についてはやむを得ず受けざるを得な
いけれども将来はこうして地方財政法違反は繰り
返すべくないという御答弁あ。こしめるべきだと
思うのですが、

教育長(工藤和子君)その通りでございます。

二番(後藤ゆき君)厚生計画になるかと思ひます。がし尿
肉題あるいは産廃肉題。市は計画下でそれと処
理すべくしてあります。がそれと同じような肉題で
市民の歩として排水下水という肉題下非常にい
てあるうでございます。市の中心道路の排水は

うまくい。てるかも知れませんが中心下高はた
とくろは非常に排水に困。てある。毎日の給水も

水が排水する道が、ごく非常に不衛生的に処理され
 あるいはその排水路の途中でまわっていて非常に困
 っている。市では道路下に配してくれるが排水はど
 うしてくれるのだということ。下河人のうち、市
 としての計画が道路の下で、早く急に進みまうよう
 うというところ。下申しとありまう。この計画は
 たとみにその排水路の、この重要案の
 一つである。市内の排水がある道下通って正
 しいところの流れていく。この計画は、この五
 年計画の最後には、うすくいく。この計画は、
 この、要望のよう。この計画は、この計画は、
 である。

建設部長新井重助君汚水の排水問題。すなわち旧市内に
 排水する道路に側溝がない、排水に困っている。

ところが多いのでございす。これは道路に貼ります。側溝というのは汚水を流す場所ではないので、これは雨水を流す溝なのでございます。館山市は下水に対して施設もなく、今後莫大な費用がかかります。下水道事業でございす。現在その計画も考えてあります。が、実際の運用となると、あります。せんので、やむを得ず、果道のところは側溝を作りまして、それを利用していただく。このように現在やっております。また、今までの集团的に困つておるところは、まあつても、でございす。すが、三軒のたぐひに五〇〇メートルも三〇〇メートルも、施設をしていくという現在、余裕がございまして、もうでなすべく、なうは排水路がございす。それ、それでございす。それで、それ以下は建設課にございす。相變して、いす。うす。て排水をや、ていす。うす。いと

思います。

三番（後藤）ゆき君 今お話しです。地え負担で五、六軒
あつ集まつてやつておるのです。が途中です。やつて
しうぬ頼りしてゐる。結局市がそれと計画してや
つたならば皆さん協力してある一つの排水網と申
しましう。それがさういうもの。計画してやつて地え負担
も結構です。かう市で排水網を計画していつていいとい
う。うゝと下要望してあつてます。

四番（志村信作君） 私も汚水かう市街で守るために水の
処理のすりぬとも今三番議員の質問で大体のあり
まゝにけいとも下水のこつとつて三つに分けた
かべい、と思ひます。市街地にあるのは下水道でござ
います。その次が排水路でございましてこれは市
街地の周辺よりよく雨水等排除するものでござ

います。これと定備しました。せんとはは市街の下水
道は水が侵入します。

その次の河川でございいます。部会へは護岸工事
の完了してないところがあります。河川の方はまず
まずいい、ハロミリまでは大丈夫で、こうおしゃつ
ております。が、神水路の方は最大限の雨量で収容
する。それと除々に市街地の下水道に流れるように
していかうければいい、と思います。その点で要望
してあります。

次に観光面でございいます。最近非常に大型バスによ
る観光客が増加して参ります。船形の「差の観光」
等、一月に大型バスが三台も止ります。あそこには
地元の青年会館があります。そこには随してあり
ます。小さい便所があります。一か一それで向に合めな

くて周辺に立小便をしてもと非常にくまなく迷惑してある。これは早急な適當な処分をもつと大々の設備をしてもらうなければならぬ。それからもう一つ、崖の観音の入口がカーブになって交通上危険でありますので五ヶ年計画の中にこれを將來は駐車場と考慮していただく。考へて早く便所の施設を早急にお願ひしたいと思ひます。

建設課長新井重助君　さう今の排水路の問題でございますが、これは先ほど説明しましたように都市計画の方を取り上げてあります。館山排水地域は五六町歩、北条一三八町歩、那古二一〇町歩の水を排水する、こういうふうな計画をやっております。これは完成するうちに、位金も、おはと申しますと一億一千万ばかりかかるのでございます。現在これだけ女修もござ

ませんので新井排水路の一部、大野町三野町の一部、下流ばかりでも完成いたりますれば、それら四年度までの計画でござります。それ以降順次や、というふうに考えております。急速に中は合います人が現在上流から流れる水がつかまるというところを早急になおせません。館山市のためにぜひ実現していただきます。考えております。

・商工水産課長(羽山彦雄君) 共同便所並に駐車場についてお答えいたします。

共同便所につきましては設置箇所敷地等の調査といたしましてござります。即要望にございます。と思っております。なお駐車場については都市計画等の関係もござります。すし敷地買収等という関係もござります。十分検討していただきます。

二番(安西政治)私の聞き違ひであつたらう確認の意
味は質問の通りですが市長さんにあつては当初の
計画はあくまでも基本的なものであつて何か相
当の束縛を受けようとする答弁されておつたと思ひ
ます。しつゝその後いふやうな事業基本法による農
政計画は大幅に変更されるとかさうに館野の精堂
へ問題点といつては大幅な弾刀性のあるというよう
な御答弁下ないといふことですがいづれも本意で
あるかといふこと下ないといふ一度市長さんの氣持から御
答弁願ひます。

。市長(田村利男君)両方本意であります。

。二番(安西政治)この計画は筋の通つたことであるなら
ば大體にとり上げていふに過ぎるのだ。さう解釈し
てよろしいわけではございませんか。

議長山本 早 君 おはりのいまして。

一、この計画書に對します、質疑、打ち切りたいと思ひます。御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長山本 早 君 御異議なしと認めます。

かまねておはりのいまして。議案第四九号

新市町村建設計画の、実施計画書、討論省
畠原案通り、可決いたします。御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長山本 早 君 御異議なしと認めます。

よ、て本案は、原案通り、決定いたします。

以上の議事の全部を終了いたします。

これで本臨時会、閉会いたします。

午後五時三〇分閉会

昭和三十六年五月二十四日

右会議の次第を録し、署名する

館山市議会議長 山本 昌

同 署名議員 松本 昌

同 志村 信作

